

知事と区市町村長との意見交換会(檜原村)

令和2年10月13日(火)

15時10分～15時30分

○**行政部長** それでは意見交換を始めさせていただきます。冒頭、知事からお願いをいたします。

○**知事** 坂本村長、どうも今日はわざわざお越しくださいました。御苦労様でございます。もうコロナがずっと続いている中で、いろいろと御尽力いただいております。

今日は長期戦略を今描きつつあるわけでございますが、これまで描いてきたのとコロナの時代は、また大きく違っております。ウィズコロナの社会をどうやって生きていくか、そしてまた新しい日常を描くという、そのためにも今都政では構造改革も進めております。それによってまたサステナブル・リカバリーという新しいこの新たな視点でもって長期戦略を描くという、そのような段階でございます。

今日はいろいろオール東京で立ち向かっていかなければならない課題もございますので、まずは檜原村の現在の状況、そしてまたこれからの様々なビジョン等をお聞かせいただければと思います。よろしく願いいたします。

○**行政部長** それでは坂本村長、御発言をお願いいたします。

○**檜原村長** それでは檜原村における取り組みや課題等を御説明させていただきます。まず一点目ですけれども、アフターコロナを見据えたサテライトオフィス事業であります。

新型コロナウイルス感染症の拡大は現在も続いており、経済活動には甚大な影響をもたらしています。いまだ終息が見込めない中、住民、企業等の活動には多大な影響を及ぼしているものの懸命な努力が続けられています。

そのような状況下において、三密回避、テレワークやウェブ会議の普及等、新しい日常の実践が求められている中では、都市部から自然豊かな地方が注目を浴びている状況であります。

檜原村は東京都にありながら緑豊かな自然環境に恵まれており、空き家等を利活用したサテライトオフィス整備事業を実践することが可能で、更には移住、定住にも繋がり、村の活性化が図られると考えています。

この事業はウィズコロナ、アフターコロナを見据えた重要な政策でありますので、今後の事業化に対しての連携、並びに支援をお願いいたします。

続いて二点目でありますけれども、木材、地場産材の活用になります。これは村では森林の経済的価値の他、二酸化炭素の吸収、酸素や水の供給という環境面での価値にも注目し、公共施設への積極的な木材活用、並びに木材事業者等への補助制度を創設して運用しているところでありますが、更なる地場産材の利活用と木材への付加価値を付け、ブランド化を図ることも必要と考え、木材天然乾燥施設を整備いたしました。

また、トイビレッジ構想に基づき、子供の頃から木に親しめる環境を整備していくため

に、木育も推進していく中では、令和元年度におもちゃ工房を整備し、今年度より檜原森のおもちゃ美術館の建設に着手し、令和3年秋の開館を目指しているところがございます。

村での地場産材活用の事例を参考にいただき、東京都を中心とした公共施設での木材利活用の促進、並びに檜原産材を利用した木材仮設住宅の導入を御検討いただき、併せて都心部を中心とした都内区市町村に交付される森林環境譲与税を、多摩産材等、東京都内の森林のために活用できるよう、積極的に働きかける御支援をお願いいたします。

続いて、檜原村が実施している新型コロナウイルス感染症対策事業について、御報告をさせていただきます。

村では新型コロナウイルス感染症の感染拡大により影響を受けた、村内の中小企業等の事業を持続させるための中小企業等経営持続化支援事業として、売上等が減少した事業者に対し、1事業者当たり20万円の支援をいたしました。

続いて二点目でありますけれども、檜原村地域振興券事業であります。これは新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛や営業自粛等により低迷している村内の経済活性化を目的に、村独自事業として、村内のみで利用できる地域振興券を村民一人につき3万円相当券を発行し、各世帯に配布をしております。

続いて三点目ではありますが、檜原いきいき支援金事業でございます。こちらも新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛や営業自粛等により低迷している村内の経済活性化を目的に村独自事業として、村民一人につき現金2万円を支給しております。

以上が主な感染症対策事業であります。今後の新型コロナウイルス感染症対策といたしましては、新型コロナウイルス感染患者受け入れに伴う公立病院への財政支援等とともに、今後も檜原村が実施する各種事業に対しましても、格別の御配慮と御支援をよろしくお願いを申し上げます。以上でございます。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは知事からお願いいたします。

○知事 まずアフターコロナを見据えた新しい日常づくりの中で、先ほど一軒家なんですね、あれね。テレワークのために提供されているということですが、身近な場所でテレワークを実施できる環境を整備するというのは、まさしく檜原村にとっては今チャンスかと思えます。地域の活性化にもつながるかと思えます。

都は市町村や民間事業者が行うサテライトオフィスを整備される際には、整備と運営費の補助をしておりますので、引き続き連携してテレワークの普及に取り組んでいきたいと考えております。

コロナが始まった時3月が24%の実施率だったテレワークが、もう一気に4月、5月になりまして60%までいった。それで少し下がって、また今戻りつつあるというような状況で、テレワークはもう新しい日常に既になりつつあるということかと思えます。

そして次に檜原というと多摩産材と言っても過言ではないかと思えますが、檜原産を含みます、多摩産材をはじめとした国産木材の活用の取組でございます。林業の活性化にもつながることは言うまでもありませんし、また、持続可能な森林環境の促進と、それから

治山治水ということにも有効であるわけであります。

前から申し上げておりますように、全国知事会で国産木材の活用に関するプロジェクトチームPTで私自身リーダーを務めておりまして、こちらで政策提言をして、農水省や文科省、国交省の方にも昨年7月の時点で要請をいたしております。

国産木材はできるだけ活用しようと、そういうやはり需要を生み出すということから、庁内検討会も設置をしまして、都の関連施設での木堀の設置、それから内装の木質化、それから什器の整備等通じて、様々な分野で多摩産材をはじめとして国産木材を積極的に利用しようと、そのような普及PRに取り組んでいるところです。

若干このコロナのところでいろんな動きが、ありとあらゆるものが少し鈍くなってはおりますけれども、また市区町村の多くの都民の目に触れる公共施設での活用に対する支援等もこれからも進めてまいりますので、多摩産材の需要拡大、図っていきたい。

それから再開時の応急仮設住宅の建設も、建設業団体等と協定締結しております。被災の時に木材を加工できるのであるならば、檜原産材をはじめとする多摩産材を活用するというのも選択の一つということです。

また、森林環境譲与税についてもお話ございました。多摩産材の利用促進の取組に対する協力依頼を行う等、都心部の自治体と連携をしていくというのが、より意味のある姿かというふうに思います。多羅尾副知事の方からもお話させていただきます。

○副知事 公立病院のお話がございました。檜原村さんは他の1市1町さんとともに公立阿伎留病院を運営されているということでございますが、コロナ禍において大変経営上困難な課題を抱えているというふうに承っております。

都といたしましては、コロナ緊急対策として総額100億円の特別交付金を創設する等、市町村の財政支援に取り組んできたところでございますけれども、今後も村の財政状況等も踏まえつつ、市町村総合交付金等を活用いたしまして、公立病院の適切な支援に努めてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○檜原村長 よろしく願いします。

○行政部長 それでは坂本村長の方からございますでしょうか。

○檜原村長 ありがとうございます。特にテレワークについては、既に株式会社を立ち上げてスタートしているグループもあります。また、既にある空き家を利用して、そういう人達を呼び込む施設が2つほど出来ています。

ですから、先ほど写真で紹介したのは村がやるということの一つのベースになります。

それ以外にもう既にスタートしています。ですから、都内から近距離という意味では注目を浴びているなど。

○知事 これは、どういう人が今使ってらっしゃるんですか。

○檜原村長 この写真にはないんですけども、実はワーケーションの拠点設立の提案というのもあるんですけど、ここをやっているグループは株式会社檜原ライフスタイルラボというのを立ち上げて、今準備をしております。施設で中心になっているのは40歳ちょっと過ぎた女医さんなんです。週一、檜原村の診療所もお手伝いいただいて、それで企

業の産業医としても、こちらに出て来て週に2回ほどこっちで仕事をしています、都内。その中で後の時間をここに費やしている、そういう人も既にスタートしています。

○知事 例えばこういう所の通信環境の整備なんかはどうなさるの。

○檜原村長 そうです、知事。ですから是非5Gのですね。

○知事 流れを作っちゃいましたね。

○檜原村長 環境整備をしていただくと、非常にここが活かされるなというのがあってですね。たまたま先日、NTT東日本の立川支社長が来たものですから、何とかしてくれないかなと言ったら、通信距離が短いと。でもせっかくのこの環境を活かせるのはここしかないよという話をさせてもらったんですけど、是非その辺も、拠点を絞っても5Gが使える環境を御支援いただければと思っています。なかなか今まで日の目を見なかった、その自然環境の活かされ方としては非常にいいかなと。

先日も村の住宅が空いたんです。それで募集をかけたらなんと1戸に12組の申し込みがあるんです。ですから1組しか入れないから、せっかく村に来たくても11組がこぼれちゃっているわけです。そのくらい今は関心を持ってもらっていますので、これからが村として更に伸びるチャンスがあるのではないかと、こんな思いをしています。

○知事 これ先ほどの自治会別空き家で300件近く、いろいろ状況は違うようですけども、可能性はあるということ。

5Gというのは東京都では進めていまして、今大体4Gなんですけど、それを更にスピードは倍になるどころか、100倍とか一気にわーっと速度が速くなるという、大変便利なものになるわけです。

超高速モバイルネットワークの早期構築ということで、通信事業者とタッグを組んでいると。今都心の部分の5G化というのを進めているんですけど、ちょっとこの辺のところは課題として、あちこち点在しておられる場合の通信環境整備というのは、またこういう都心部とはまた違うかと思えますけど、ちょっとその辺はどういう形が可能なのか、NTTの方にお尋ねになったということもございます。またここも考えさせていただければと思います。

○檜原村長 村全体を一挙に5Gの環境というのは全く無理ですから、スポットで拠点を決めて何か所か整備できれば。そこを中心にワーケーションの取り組みを進めていく。それができればと思っていますけれども。是非その辺の、いつも泣き言を言いますが、財政支援をちょっとお願いできればと思っています。

○行政部長 どうもありがとうございました。それでは最後に知事からお願いいたします。

○知事 今日御苦勞様でございました。やはり去年こうやって皆さんから直接御要望等を、また現状等を伺いました時と、かなり状況違ってきています。それをネガティブと考えるか、ポジティブと考えるかでありますけど、ポジティブに考えて新しい日常、サステナブル・リカバリーという同じ方向に向かって進んでいければと考えています。どうぞよろしく申し上げます。

○檜原村長 よろしくお願ひします。

○行政部長 それでは以上で意見交換を終了いたします。本日は御多用のところ、どうもありがとうございました。